

新・中国学のヒント

#17 アジア歴史地理情報学会

水島 司

Sinology

◆ 中国研究と「アジア歴史地理情報学会」設立

二〇〇〇年代に入り、GIS (Geographical Information System/Science 地理情報システム・科学) をベースにした歴史分析——これを歴史地理情報学 (Historical GIS) と呼ぶ——の成果が内外で続々と現れ始め、それを背景として、この六月に、「アジア歴史地理情報学会」(ANGIS-JAPAN: Asian Network for GIS-based Studies - Japan) が設立された。

歴史地理情報学とは、簡単に言えば、歴史上の動き、出来事、変化の分析を空間と連関させて分析するものです。もちろん、これまでも空間が重視されてきましたが、特に歴史地理情報学と言う場合、変化や状

況を点・線・面で表現される空間に落とし、歴史変化を分析するものを指しています。もう一つの特徴として、歴史地理情報学では、一般に情報を緯度・経度とリンクさせるため、過去の歴史の中で記録されてきたさまざまな情報が、同一のフォーマットで蓄積することができます。そうした特徴を活かして、近年は、さらにそれを時間軸でも表現する時空間情報学と呼びうる研究も進んでいます。

従来のこの分野での研究として、日本では、Okabe Atsuyuki (ed.) *Islamic Area Studies with Geographical Information Systems* (RoutledgeCurzon, London, 2004) を嚆矢とし、水島司『前近代南インドの社会構造と社会空間』(東京大学出版会、二〇〇八年)、

水島司・柴山守編「地域研究のためのGIS」(古今書院、二〇〇九年)、HGIS 研究協議会編「歴史GISの地平」(勉誠出版、二〇一二年)などがあり、海外からは、Anne Kelly Knowles (ed.), *Placing History: How Maps, Spatial Data, and GIS are Changing Historical Scholarship* (ESRI Press, Redlands, California, 2008) その他の関連書が出はじめています。学術会議が日本の学校教育の中でGISの普及を働きかけていることもあり、近い将来、デジタル世代にとって、GISの利用は、ワープロはもろろん、スマートフォンと同様に当たり前のものとなるように思えます。

アジアのGISをベースとした歴史研究の中で、日本を除き、最も進んでいるのが中国・台湾です。そもそも台湾中央研究院が進めてきた中国歴史地図のGIS研究に、復旦大学、ハーヴァード大学、カリフォルニア大学バークレー校などの研究者が加わり、現在まで、着々とGIS研究環境の整備を進めてきています (<http://www.>

fas.harvard.edu/~chgis/ 参照)。また、それらの関連研究機関が中心となってECAI (Electronic Cultural Atlas Initiative <http://www.ecai.org/> 参照) をはじめとする国際学会も動いており、日本の研究者も毎回参加しています。

今回、新たに「アジア歴史地理情報学会」が設立されたのは、これまでの研究に、大きく三つの問題が存在したからです。第一は、これまでのGISに関する研究の多くは、手法開発への関心が強く、その手法を用いて得られた学術的成果に関しては、満足すべきものが極めて少なかったという点です。そのため、歴史学への貢献がまだ実感できないという研究者が多いと思われるます。第二は、成果を生み出すための下準備(データに空間情報を与える作業)に時間と労力がかかり、またそうして作成したデータベースへの学術的評価が低く、貴重な情報が失われてきたことです。第三は、有効かつ効率よく利用するためのGISインフラ(空間情報を地図上に表現するベースマップ)

が整っておらず、歴史地理情報学への参入障壁が高いという点です。こうした状況が続いているため、GISを基礎とした研究が極めて大きな可能性を秘めているにも関わらず、現実にはなかなか進展してこなかったのです。

本学会の設立は、このような現状を打破し、かつ、アジア諸国の研究者と連携しながら、アジアでの歴史地理情報学の研究体制の整備と研究の進展を図るためのものです。活動としては、さしあたり、年一回国際会議を開催し、英文による学会誌をウェブで発行することを目的としています。会は、基本的に全てインターネット上で運営され、学会誌もウェブで出されますので、会費も当分徴収予定はなく、年一回の国際会議の参加費だけで運営されることになります。このような学会に関心をお持ちで、学会に参加される方は、angisjapan@gmail.com までお申し込み下さい。

(みずしま・つかさ 東京大学)

中国発行の日本語月刊総合誌

人民中国

People's China 10月号

人民中国雑誌社 定価 400 円 (税込)
[年間購読料 4800 円 (税込)]

【特集】 高度成長期に入った貴州経済
◆ 中国伝統の技
◆ 広西チワン族自治
区南丹県 歴史が
秘められた白褲ヤ
オの民族服
◆ 中国
共産党はなぜで
きるのか? なぜ党
党を管理できるの
か
◆ 中国の老舗と逸品 小さな扇面の
雅びな世界「王星記」の扇子
◆ 科学的
発展観とその成果(下) 中部の先進低
炭素都市——江西省南昌市
◆ 中国一日
本 友好の絆 鄭州◆私のしごと
一人ひとりに最適な食事指導 栄養士
◆ 上海の洋館レストラン 雍福会

「人民中国」は中国で編集・発行される日本語雑誌です。見本誌贈呈致します。
03(3937) 0300 (東方書店)
デジタル版を www.fujisan.co.jp で販売しています。サンブル版の試し読み(無料)もできます。
<http://www.fujisan.co.jp/magazine/1365>